

## スラムの子どもを救いたい！ ～ケニア、チャイルドドクター・ジャパン～

### 1

トタンを継ぎはぎした屋根に、壁は同じくトタンか板張り。年に二度ある雨季（一年のうち、降水量の多い時期）には、さぞ雨漏りがひどいであろう小さな家が軒を連ねるアフリカ東部、ケニアの首都ナイロビにあるサウスランズスラム。

日頃から医療問題に関心がある私は、ケニアで医療活動をする特定非営利活動法人チャイルドドクター・ジャパン（以下、チャイルドドクター）を取材するためにここを訪れた。

チャイルドドクターは、スラムや孤児院に住む〇歳から十五歳までの子どもが無料で医療を受けられるように支援している。活動エリアは、ナイロビ市内のスラム七か所におよび、サウスランズスラムもその一つだ。

チャイルドドクターのスタッフの案内で入ったスラムは、むき出しの地面に石がゴロゴロしていて歩きにくく、ゴミ

が散乱していた。水道がないため、住民は広場にある給水塔からポリタンクで水を汲み、家まで運ぶ。トイレは公共トイレしかなく、わずかだが使用料がかかる。

下水道もないので、住民は洗たくなどに使ったあとの水を道端の浅い溝に流しているが、トイレの使用料が払えず、尿も一緒に溝に捨ててしまう人もいる。そのため、感染症が発生するとスラム全体に蔓延しがちだ。

スラムに住む人の大半は、干ばつなどで生活できなくなり、仕事を求めて地方からナイロビに流入してきた。市内最大のキベラスラムには約一〇〇万人、サウスランズスラムには約六〇〇〇人が暮らしている。職を得られなかったり、日雇い仕事だったりして貧困から抜け出せない人が多く、公的な都市整備や援助も立ち遅れている。

治安もよくないので、外部の人はあまりスラムに入ることとしないが、チャイルドドクターは例外だ。フィールドスタッフと呼ばれるスタッフが、自分が担当するスラムを毎日巡回し、支援中の子どもの様子を見たり、住民に